

## 平成 19 年度 第 1 回 西木地域審議会会議録

一、日 時 平成 19 年 6 月 7 日 (木) 午後 2 時

一、場 所 「西木総合開発センター 集会室」

一、会議に出席した委員

布 谷 政 男	小 林 清 司	大 蔵 定 臣	小 林 康次郎
佐々木 茂 徳	鈴 木 順 子	門 脇 藤 子	赤 倉 羊 子
鈴 木 重 蔵	藤 井 けい子		
浅 利 重富美	橋 本 米 彦		

一、会議を欠席した委員

武 藤 晟 平 橋 本 典 子

一、会議に出席した職員

西木地域センター長	門 脇 主 彦
総務部次長兼企画政策課長	倉 橋 典 夫
総合窓口課長	新 山 敦 晃
地域振興課長	大 澤 清
企画政策課主査	阿 部 聡
総合窓口課総務班長	浅 利 喜一郎

一、会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 今年度の日程説明
- 4 議事
  - (1) 「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を具現化するために西木地域の役割は」について
  - (2) 「定住人口 3 万人の確保と交流人口 1,000 万人の具体的方策は」について
- 5 閉 会

一、総合窓口課長が開会宣言する。

(午後 2 時)

一、会長あいさつ

一、総務部次長 (今年度の日程説明) 4月24日に3地区の地域審議会会長・副会長・地域センター長及び担当者にお集まりいただき、本年度の地域審議会をどのように進めていくのか、いろいろ協議していただきました。昨年は諮問という形を取らせていただいて、総合計画についてご意見を伺ったところでございますが、会長さん方から今年度の審議会でも意見を集約するためには、諮問という形をとってお話を伺いました。地域審議会の意向を受け、2回目は諮問の形で検討したいと考えております。総合計画が本格的にスタートした年でございますので、総合計画の中の最も大切な部分について、ご意見を伺ったらということで、今回2つのテーマを設けております。総合計画の中で重点プロジェクトということで、定住人口3万人の確保と交流人口1,000万人を目指すという大きな目標がございます。その実現のために3つのプロジェクトチームが取り組み始めたところがございます。そこで地域審議会の皆様にそうしたことについて、ご意見を伺ったらということでございます。そういうことで今年度も皆様から、ご意見ご提言を伺ってまいりたいと考えております。

そして、今年1年の予定ですけれども、今日も含めまして3回の審議会を予定しております。それからその他に合同研修会を1回開催したいと考えております。合同研修会につきましては、仙北市内の施設を3地区の審議会の皆様に一緒に回って見学したいと計画しております。その中で国体開催会場を是非見ていただきたいということで、今のところ7月中に合同研修会を開催したいと考えております。申し訳ございませんが、研修会につきましては、報酬等ございませんので、自主参加という形を取らせていただきたいと考えております。日程が決まり次第ご案内を差し上げたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

一、議 事

一、議 長 それでは、(1)(2)について一括上程しますので、ご審議願います。それでは事務局からご説明願います。

一、企画政策課長 (説明要旨) 予め資料を配付しておりますので、資料の説明を申し上げます。その後にご審議いただきたいと思っております。

最初に、「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を具現化するために」の資料について、ご説明申し上げます。

こちらの資料につきましては、仙北市で現在取り組んでいる事項等についてまとめたものでございます。最初の方には、角館地区で活動しておられます2つの団体の活動内容を記載したものでござい

ます。企画集団トライアングルと角館まちづくり研究所、このような活動をしているということです。仙北市内にいろんなNPO等が十数団体ございまして、次回にでもNPOの団体をご紹介したいと思っておりますけれども、非常にいろんな場所で活動が行われております。

その次に、農家民宿・農家レストランの推移ということで、秋田県で取り組んでおります秋田花まるグリーンツーリズム推進協議会のホームページに掲載されているものでございまして、農家民宿としては、西木の泰山堂さん・星雪館さん・角館の西長野にはファーム inn 緑の風さん・田沢湖では民宿彦禄さん・農家民宿輝湖さん、この5軒が県のホームページに農家民宿として登録されております。

それから、農家レストランとしては、手打ちそばきり長助さん・手打ちそば処そばせんさん・そば処すが家さん、角館の3軒が登録されております。

それから、体験学習の受け入れ状況ということで、これは主として角館の武家屋敷等を活用したフィールドワークの受け入れ状況でございまして、平成18年度で2,382人、この他にも仙北市内で農業体験学習でありますとかを含めると、4,000人以上の受け入れとなっております。

次に、神代地区活性化協議会というのがございまして、冬のイベントに取り組んでいる事例もございまして。

次に人口の推移でございますが、それぞれ国勢調査の数字を仙北市全体の数字として記載しております。人口の減少が続いているということでございます。

次に観光人口の推移ですけれども、中程に計という欄がございましてけれども、これを見ますと一番多いのが平成15年度の658万人、少ない年でも平成14年度600万人ということですから、600万人台で推移しているということで、この数字を10年後に1千万人台を目標にするという計画でございまして。なお、宿泊者数につきましては、80万人台で推移しているという状況でございまして。最初の資料については、以上でございます。

次に、重点プロジェクトの概要についてとあります資料についてでございます。

総合計画にあります、3つの重点プロジェクトについて、この4月から重点プロジェクト推進室という部署を庁舎内に設けまして、専任の職員6人を配置して現在取り組みを始めております。その概

要についてご説明申し上げます。

最初に定住対策プロジェクトでございます。定住人口3万人の確保を目指そうというものでございますけれども、取り組むべき事項としては、定住促進・子育て支援策・企業誘致・雇用の場の確保等でございます。

現在、具体的に取り組んでいる事項といたしましては、空き家の調査を始めております。昨年度から田沢湖の田沢地区において基礎調査を行いまして、引き続き詳細調査に入っております。更に今年度角館の白岩地区と西木の上桧木内地区におきまして、基礎調査を行っているところでございます。5月20日から6月10日までの期間に実施するという事で、上桧木内地区におきましては、上桧木内部落会の鈴木さんをお願いして調査しているところでございます。それらの調査の結果を踏まえまして、白岩・上桧木内地区につきましては、更に詳細調査という形で所有者の方とコンタクトを取りまして、最終的には8月上旬を目処に空き家情報バンクというものを開設いたしまして、全国に空き家の情報を発信していきたいと考えております。それまでには色々な問題点等もクリアしなければならないと思っております。また、併せて遊休農地等も調査したいと考えております。

それから、団塊の世代対策といたしましては、「スローライフモニター体験事業」というものをこの秋に計画しておりまして、仙北市の3地区を2泊3日で回っていただきまして、それぞれの地区の良さを味わっていただきたいということで、西木のグリーンツーリズム研究会の皆さんと申しますか、藤井さんにご相談をしているところでございます。

また、昨年度定住対策懇談会を設置いたしまして、これまでに2回会議を開催しております。その中でも定住対策について、いろいろなご意見を伺っており、今年度3回程度懇談会を開催するという事にしております。

また、定住対策で一番言われます雇用の場の確保ということで、企業誘致ということが色々いわれております。ただ、仙北市におきまして企業誘致としての用地につきましては、西木地区の105号線沿いにあります土地が、企業誘致の土地としてあり、角館・田沢湖地区につきましては、企業誘致用の土地としては現在ありません。そこで市の所有する市有地につきましては、企業誘致の適地がないか今調査を進めているところでございます。企業誘致用用地としてば

かりでなく、定住対策に活用できる用地につきまして、調査を進めているところでございます。(14:15)

また、企業誘致ということも大切ですが、既存企業につきましても色々情報交換したいということで、仙北市内に23社の誘致企業がございまして、この企業に商工課と一緒にヒアリングを行い、その取りまとめ作業も実施しているところでございます。

次に、テンミリオン計画プロジェクトでございます。これは先ほどご説明した観光客数を基に、交流人口1,000万人を目指そうというものでございます。2ページ目に取り組むべき事項でございますけれども、観光客の誘致体制の整備・観光資源の掘り起こし・交通アクセスの整備・自然環境の保全・歴史文化の継承・体験型観光の推進等がございまして、本年度の重点事項としているのは、観光振興計画というものを今年の12月までに策定することにしております。それぞれの町村で観光振興に取り組んできたわけですが、仙北市としての観光振興計画を策定するというので、観光振興等に関する事業につきましては、この計画の中に盛り込みまして事業化していきたい。今月中に観光振興計画策定委員会を設置いたしまして、会議を開く予定になっております。

また、当面の推進事項といたしまして、スポーツ合宿補助金制度の導入でございまして、大学等の合宿あるいは、ゼミ・文化部活動等の充実を図れないかということで、この助成制度の導入について検討しているところでございます。特に廃校となった学校施設の利活用を出来ないかと検討しているところでございます。

それから、関連事業といたしましては、今年度仙北市の観光PR用DVDを策定することにしております。

また、先般ノースアジア大学と観光関係の提携を交わしたところでございます。ノースアジア大学では、来年度から法学部に観光学科を設置するというので、県内の市町村と協力しながらいろんな研究を進めるということで、これに協力していきたいと、また、こちらの観光振興に是非力を貸してもらいたいということで提携しております。

次に、産業連携プロジェクトでございますけれども、これにつきましては、従来から産業観光と他の産業の連携が、必要であるといわれておりますけれども、この連携を図って産業の振興を図っていきたいということで、取り組むべき事項としては、観光産業と他産業の連携・産業振興策・森林の活用策・商業振興策・物産の開発等

でございます。

今具体的に取り組んでいる事項は、仙北市内の直売所について、アンケート調査を踏まえまして、その取りまとめをしているところでございます。それらを基に直売所の情報交換の場を持ちたいということで、連絡協議会といったものを立ち上げたいというふうに考えております。

次に物産と観光PRを担うアンテナショップ、PRセンターの調査・検討ということで、昨年から首都圏に仙北市のアンテナショップ若しくはPRセンター的なものを設置したいということで検討を進めているところでございます。

4月でしたけれども、東京の板橋区の上板南口銀座商店街というところで、地方の市町村の直売所のコーナーを設けて、そちらから仙北市に視察に来まして、色々意見交換を行っております。そちらに出店する際にこちらのまとまりが、物産協会とのまとまったものがないと難しいということで、そういう検討を進めているところでございます。

それから、仙北市推奨の物産認証制度を創設したいということで、商工会と連携しながらこの制度を今年度立ち上げるということになっております。

関連事業といたしましては、直売所マップの作成や、特産品料理コンクールの開催等でございますけれども、その中で、緑化推進対策事業と「水と緑の想像」事業につきましては、従来西木村で取り組んでおりました森林体験の事業を仙北市に広げて今年度も行うものでございます。

次に3頁の資料2ですけれども、これは同じ重点プロジェクトなんですけれども、この前新聞にも出てましたけれども国の方で頑張る地方を応援プログラムという、全国の市町村が取り組む活性化対策について、交付税で支援するという制度ができて、仙北市からは、重点プロジェクトの3つのプロジェクトを頑張る地方プロジェクトに申請しております。この申請書の内容でございますけれども、これについては、具体的な成果目標と実際の事業費が入っております。定住対策プロジェクトにつきましては、成果目標を人口が平成19年度で31,852人ですけれども、平成22年度に減るんですけれども31,000人とどめたいという目標でございます。それから空き家の活用軒数に関しては、現在は0軒、平成22年度には15軒。それから、団塊世代移住人数については、平成22年度に20人

にしたいというものでございます。

そして、具体的な事業が下にありますけれども、右側の事業費の括弧書きは平成 19 年度に計上されている額です。

次に 4 頁のテンミリオン計画でありますけれども、具体的成果目標は、観光入り込み客数は平成 18 年は 614.2 万人、平成 22 年には 720 万人、宿泊者数は、平成 18 年 82.2 万人、平成 22 年 100 万人、体験学習旅行者受入数は、平成 18 年 4,627 人、平成 22 年に 5,700 人にしたい。具体的な事業は、下の表のとおりです。

次に 5 頁の産業連携プロジェクトですけれども、具体的な成果目標は、農産物直売所設置箇所数が、18 カ所。首都圏 PR センタ - 設置箇所が 1 カ所。市推奨特産品が 30 件というものです。

次に 6 頁の資料 3 でございます。仙北市の年代別の人口について、平成 17 年の国勢調査からひろったものでございます。下の方に参考ということで、年齢別割合が、15 歳未満が 11.2%・15 歳から 64 歳が 58%・65 歳以上が 30.9%ということで、非常に少子高齢化が進んでいるという現状でございます。

次に 7 頁です。これは市営住宅の棟数でございます。角館地区の市営住宅が、棟数が 44 棟・田沢湖が 44 棟・西木が 19 棟ということで、全部で 107 棟です。建築年度が非常に古いものが田沢湖・角館にありまして、一概に比較はできませんけれども棟数ではこのようになっております。

8 頁には住宅の入居者の年代別入居者数となっております。

次に 9 頁ですけれども、合併した時点で誘致企業の状況ということで、23 社誘致企業がありまして、県の誘致企業であったり、各町村の誘致企業であったりしているわけですが、仙北市で今登録されている誘致企業 23 社に、先般ヒアリングを行っております。

それから 10 頁 11 頁につきましては、平成 18 年 3 月に施行いたしました仙北市産業振興条例でございます。これが、誘致企業が来たときに市としての奨励措置を定めたもので、奨励措置の中身につきましては、第 5 条で規定しております。後でご確認願いたいと思います。

次に 1 2 頁ですけれども、これは商工課の方で行っております。雇用対策の一環として行っている制度でございますけれども、仙北市勤労者対策事業費補助制度と仙北市雇用対策事業費補助制度がありまして、参考までに載せたものでございます。

次に 13 頁でございます。今年の 3 月に卒業した高校生の進路状況

を調査したものでございます。調査に当たっては、近隣の 12 校を対象に行ったものですので、中にはそれ以外に離れた高校に行かれた生徒さんもあるかと思いますが、全数ではないと思いますが、この調査に該当した仙北市の高校生は、右下の括弧書き 243 人でございます。これによりますと、その内仙北市内に就職等した人は 21 人です。その他、県内に就職した人が 33 人、進学した人が 31 人、その他が 9 人ということで県内が 73 人です。県外に就職した人が 28 人、進学した人が 111 人、その他が 10 人ということで県外が 149 人です。これだけ見ますと、仙北市内に就職した人は、全体の 1 割にも満たないという数字になっております。中には他市町村に家から通っておられる方もあるかと思いますが、何れにしましても、高校を卒業して地元に残る方は、少ないというような状況です。

次の 14 頁 15 頁につきましては、各高校ごとの数字でございます。中には、仙北市の方の情報しかもらえない高校もございますが、参考までにご覧いただきたいと思っております。

資料の説明については、以上でございますけれども、重点プロジェクトについて、4 月 5 月と過ぎたわけですが、主として基礎調査・情報収集等を行っておりまして、具体的な事業化は今後の取り組みの中で、進めていきたいと考えております。皆さんからいろんなご意見・ご提言を伺いながら、重点プロジェクトの参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

一、議

長 説明が終わりました。委員の皆さんお考えを発言していただきたいと思っております。

私から申し上げますが、去年の 8 月ですか、基本構想の素案についての方針ですか、皆さんのお手元に届いていると思っておりますが、今議題になっております、少子化関係の問題です。これにつきるといふことで、人口の減少に歯止めをかけ、定住人口 3 万人維持といふこの課題に対する施策が最重要であり、基本構想及び基本計画において、積極的に取り組むよう明記願いたいという、こういう基本構想において意見を申し上げますが、結局、それでどうすれば良いかというのが返ってきたわけですが、皆さんのそれぞれのご意見を賜りたいと思っております。

一、鈴木(重)委員

NHK の朝の連続ドラマのロケだとか来るとすごく知名度が上がるわけで、NHK さんを利用する「のど自慢」なんかをやったらどうでしょうか。もっと知名度をあげることをやったらどうかと思っております。

市の節目に開催したら、知名度が上がると思いますが。

一、藤井委員

観光人口というのは今のままで減ってくると思うので、折角良い観光地なので、例えば全国大会を開催したらどうでしょうか。我々もグリーンツーリズム全国大会だとか、地域興し全国大会だとか開催している地域がたくさんあるので、全国大会を開ける体制、そういうものに目を向けていった方が、角館・田沢湖というものがありますので、「じゃ行ってみようか」という方が出てくると私は思います。大会を開けるイメージを付けると人は来ると思うし、接待の面でも良くなるので、良いイメージが広がっていくと思うので、むしろ観光地に来てくださいますと言うよりは、そういう方向に目を向けていったら、来てくれる人が多いんじゃないのかなとそういう話をしたことがありました。

それからもう一つ、2頁のスポーツ合宿補助金制度の導入というのがあります。この中のスポーツというものを取ったらもっと範囲が広がるんじゃないかと思えます。大学等の合宿、ゼミ活動に対する補助金じゃなくて、3泊でも4泊でも宿泊できる施設を整備したらよいと思う。来た方に食べさせる食事も地域の方がやるようになったらその方にも喜んでもらえると思います。

一、橋本(米)委員

一つ聞きたいんですが。定住人口3万人・交流人口1,000万人の表の中で、なぜ西木の観光人口だけが減っているのか、理由がわかりましたら教えてください。

一、地域振興課長

御座の石・潟尻地区の観光客が特に落ちているのが一番の原因と思われま。その要因が、天候とかに左右されたというところまでは確認できていませんが。

一、門脇委員

平成15年の数値が大きくなっている原因は何ですか。

一、阿部主査

平成15年の増員につきましては、春先にSARSが発生した年です。海外旅行から国内旅行への移動がありまして、この年は特異的な数字ということで、国内の観光客が特に多くなった年でございます。

一、議長

観光客にはそのときの好みというか流行というかそういうものがあるって変わっていくようです。プロジェクトチームの皆さんも頑張っていると思うが机上だけでなく、観光客が何を好んで歩いているのかというものを分析しながら、歩いてみて市の観光を考えた方がよいと思う。

一、小林(清)委員

今日の資料の作成についても難儀したかと思えますが、この資料を作成して事務局でこれだけは頑張らないと思ったこと、気づい

たことがありましたら知らせてください。

一、総務部次長 そのためのプロジェクトだと思っただけでも、人口が減っている。子供が非常に少なくなっている。いろんな面で影響を及ぼしていると痛感しております。私の方で交通対策におきまして、内陸線の問題だとか、バスの問題だとか、公共交通がダメになっている。定期 1 人いなくなると何百人と減るということになりますので、ツアーの客数は増えているんですが、通学する方が減っているの、地域としては子供の数を増やさないと大変だと思っただけです。

一、小林(清)委員 この資料の中で、定住対策が一番重要でないかなと感じたんですが。

それと企業誘致。働く場所があれば何処にも行かないと思うので、企業誘致にどの程度力を入れていく予定ですか。

一、総務部次長 一番言われてきたのが雇用の場ということで、商工課とも何回か話し合ったんですが、即効薬はないということで、先ほど申し上げましたとおり、一定の用地を明らかにして、東北管内を見ても秋田県の企業誘致が一番遅れているんじゃないかと、一市町村だけでは限界があるわけで、交通体系的にはそんなに遅れているとは思わないんですけれども、県の担当ともよく話し合っただけ、大仙・美郷とも連携しながら進めていきたい。

それから既存の企業の意見も伺ってますので、新しい企業がこなくても既存の企業が規模を拡大して行けるような環境を検討したいと思っています。

一、小林(清)委員 本荘由利の方に行くとなんか違うような気がするもんですから、あちらの方からでも来てもらえるようにしてもらえればと思います。

一、議 長 ここに西木の観光協会の副会長さんがおられますが、合併前の観光協会のままでいるようですが、当局の考え、協会の考えどんなもんでしょうか。

一、小林(康)委員 協会の方でも話し合いの場を設けておりまして、田沢湖・角館の予算が何十倍も違っている。業種・仕事している内容も違っているの、田沢湖・角館が大所帯ですので、ここが合併の合意となればなんとか。今は現状のままというのが現実です。

一、センター長 会議は、何度か開いてますけれども、一本になるところまではまだいっていないところです。市としては、一本化を希望しているわけですがけれども、その前に色々な事情があるということで、連絡協議会的なものを立ち上げながら、進めていきたい。

一、議 長 今年の春まだ雪があるときですが、仙北市バイオいきづくり事業

調査策定委員会なるものを立ち上げて、バイオマス発電を検討したわけですが、その報告表の中に市長が、本市の森林振興につながるバイオ事業を推進するとあるんですが、何で今私がこんなことを言うかということ、岩手県の葛巻町ですか、発電ばかりじゃなく全てに対応しているようで、7・8年前ですか、2・3万人だった観光客が、今は50万人を超えていると。それが先進地な故に見学に来る、それに対応してホテルを建てるやら、レストランを設備するやらで、視察に来るお客さんを取り入れて、ホテルも成り立っていると、そういうことからいくと先進地という名の下に、進めていただきたいと思います。

一、小林(清)委員 夜の田沢湖はあまりにも暗すぎて、御座の石なんかは何が出てくるかわからないという状況なので、何とかならないか。

一、橋本(米)委員 田沢湖をライトアップできないか。

空き家をどのように活用するんですか。不便なところに人が来るとは考えにくいと思うのですが、どのように考えていますか。

一、総務部次長 今調査をしているところで、まずは実態の把握というのが一つです。その次の段階で、例えば、田沢地区で基礎調査をしたところ、対象物件が30軒ありました。その30軒を一軒一軒確認したところ、その内14軒が荒廃が激しくて、住むのは不可能でした。荒廃した14軒について、地域で困っている、所有者の了解も得られないで何ともできないで、地域の問題となっている。残りの16軒について、詳細調査ということで今入っているところですけども、その内所有者にも了解していただけるのは、その半分もないのかなという感触はしております。

現在空き家でも、将来使いたいとか、人には貸したくないとか、まず所有者の了解を得られたら、空き家の状況を確認いたしまして、貸しても良い、或いは、売っても良いか等を確認して、空きや情報バンクに登録してホームページ等で情報提供したいと思ってます。白岩・上桧木内も同じ手順で、やりたいと思ってますけれども、ただ、いろんな問題があって、市として空き家・宅地取引できませんので、直接相対で交渉して貰うしかないのかなと思っております。全国的には、NPO等が仲立ちしてやっているところもあるようですが。また、買ってくればそれはそれでいいんですが、借りたいという場合、ある程度補修しないとダメな状況のものもあるので、そうした経費の負担をどうするのか。田沢地区については、玉川温泉のせいがあるのかもしれませんが、何件か照会もきております。

貸したり・売ったりトラブルが生じないようにしなければと思って  
おります。

また、全然知らない方が入ってくるわけで、地域の皆様によく理  
解していただいて進めて参りたいと思っております。

一、橋本(米)委員      どっかに勤められている方が、通える可能性は少ない。通勤がで  
きないわけです。となると高齢者の方が、もし借りるんでしたら多  
いのではないかと。高齢者の方が、どうやって雪の多い中で除雪す  
るのか、そういう問題もありますね。

一、総務部次長      おっしゃるとおりで、例えば若い人が来て、それに見合った職が  
ない、そこで暮らすのは難しいのかなと。定年退職された方が一定  
の収入があって、その他に若干働ける方が理想かなと思います。或  
いは、短期間の別荘的な活用という利用の仕方。これでは定住にな  
らないんですが、地域の活性化に結びつけることにはなると思いま  
す。

今の空き家調査をしていることで、何人が来てくださるとすれば、  
それによって飛躍的に定住人口が増えるとは思っておりません。何  
軒かでも事例が生じましたら、空き家情報バンクに登録できる情報  
があったら教えてくださいということで、全市的に行おうと思っ  
ています。

それと空き家とちょっと違うんですが、角館の市街地の商店街の  
空き店舗の調査を一緒に情報提供するような方向で進めています。

一、議                  長      今の空き家の問題なんですが、西木村で平成 15 年 1 月 1 日現在の  
空き家を調べたことがあるんですが、そのとき 102 軒位だったと思  
いますが、今のお考えと同じように利用していただくということで  
始めた経緯があるんですが、その後どうなったのかわかりませ  
んが、山崎に来られた方があったんですが、今どうなったかわかり  
ますか。来たことは来たんですね。

一、小林(康)委員      なかなかいないんじゃないかと思う。

一、議                  長      空き家の維持管理というか、潰れた状態にしておくと折角の観光  
客に「潰れた家ばかりだっけ」ということになりかねないので、検  
討していただくことを提言しておきたいと思えます。

一、藤井委員      定住者・定住者であるんだけど、これからは多重郷人口とい  
うものが増えてくると思います。夏の間涼しい田舎で暮らして、冬  
になって寒くなると都会へ帰るといいう人が出てくると思うし、田舎  
で育った人は、何処までも田舎が恋しくてしょうがないそうです。  
でも、実家に帰ろうと思っても実家のない人もいるし、実家には次

の世代の人がいる。それでも懐かしくてしょうがなく、夏だけでも田舎に来て生活したいという人が出てくると思うので、その辺を臨機応変に対応していただければと思います。あまり堅苦しく考えないで、「まず住んでみたら」という感覚であれば地域の人とも上手いくんじゃないのかなと思います。

また、じっちゃん・ばっちゃんが田舎に来ていれば、孫たちも遊びに来るというケースも出てくると思うので、何としてもそこに住んで貰わなければならないということじゃなくて、ゆっくり住めるように提供していただきたい。

一、佐々木委員 子育て支援だとか、子供を育てることにどれくらい力を入れているものですか。子供を育てることが一番大切だと思うんですが。子供を産みやすくすることが大切だと思うんですが。

一、総務部次長 福祉事務所の長寿子育て課が担当しており協議しておりますが、仙北市独自のものというのは無いんですが、県・国が進めている事業に沿って進めております。未満児保育も行っておりますが、保育士の確保で悩んでおります。それから、生まれる前の医療体系が、非常に問題ありまして、角館の病院に小児科の先生が少ないということで、まして、田沢湖病院には夜間いないということで、解消して欲しいという声があります。

一、佐々木委員 退職された方で、産婆さんの資格がある方などを、雇用する考えはありませんか。

また、国・県の事業だけでなく、市独自の施策を考えて欲しい。

一、小林(康)委員 今日の議事に定住人口 3 万人とありますけれども、これの解決方は、倉橋課長先ほど誘致企業は難しいとおっしゃいましたが、誘致企業に限ります。それしかありません。そうすれば働く場所もあるし、佐々木さんが先ほど言った、子供も安心して暮らせるし、子供も作れると思う。それで、市の方で積極的に誘致工場を私はお願いしたいと思います。

一、小林(清)委員 私も誘致企業・職場の確保に限ると思います。

一、総務部次長 商工課とプロジェクトと連携して話をしておりますが、差し当たって今週の日曜日に東京田沢湖会がありますが、そこで商工課と一緒に行って、つてを頼っていきたいと思います。

一、小林(康)委員 西木正明さんが、村の将来を案じてそういうプロジェクトをやってみようという話があったんです。行政としても積極的に参加してやっていただきたい。

一、総務部次長 そういうのがあれば是非参加したいと思います。

- 一、大蔵委員　私も企業誘致だと思う。それがないと嫁も来ない。西木の誘致企業用地は何となっていますか。
- 一、センター長　何ともなっていないんですが、時々採石の置き場として少しの間貸しておりますが、誘致企業を決して諦めたという方向ではなくて、現状は皆さんもおわかりのように、現地を見に来たり話をしたりなんかするケースはありますが、なかなか具体的なところまで進むケースが少なく、なかなか思うようになっていないんですが。今この地域を考えると他の地域と違うところがあるので、やはり職場の確保に頑張っって参りたいと思います。
- 一、大蔵委員　市の遊休地を活用するようにしていただきたい。
- 一、小林(清)委員　建物を建てて貸したらどうですか。
- 一、小林(康)委員　大企業の大会社でなくてもいいので、数多くの企業に話をしていたらいいと思います。そうすれば高校卒業しても他に行かないで、徐々に改革されてくればいいと思う。
- 一、小林(清)委員　角館のTCMは、建物を建てて貸したものです。
- 一、議長　皆さん如何ですか。閉じてもいいですか。休憩も無しで、ご意見ご提言ありがとうございました。冒頭言われたようにこの次は諮問という形になるということで、今日の会議を活かすようによろしくご協力願います。これを持ちまして会議を閉じます。ありがとうございました。

(午後3時50分)